

2018年9月25日
イオン株式会社

食の安全と持続可能な生産管理を実施する農場でつくられた農産物を“見える化”

アジア初！GLOBALG. A. P. Number (GGN) ラベル付き商品の展開を開始



イオンは、GLOBALG. A. P. (G. A. P. : Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理 以下、グローバルGAP) 認証を取得した農場でつくられた農産物であることを示す、GLOBALG. A. P. Number ラベル (以下、GGNラベル) 付き商品の展開を、アジアで初めて開始します。

10月10日より順次、全国の総合スーパー「イオン」「イオンスタイル」、スーパーマーケット「マックスバリュ」などのグループ店舗で、GGNラベル付きの「トップバリュ」のバナナ、じゃがいも、玉ねぎ、また、関東・東北エリアの一部店舗では、近隣の「イオン農場」で収穫された小松菜、トマトの販売を開始します (店舗によって取り扱い品目は異なります)。

グローバルGAPは、環境や労働安全への配慮を含む、食の安全と持続可能な生産管理を実施する農場の国際認証です。GGNラベルによる“見える化”を通じ、国際水準の農業生産工程管理に取り組む方々が生産した農産物を店頭で簡単に選んでいただくことができるようになります。また、11月には、専用WEBサイトにラベルに記載されたGGN (認証番号) を入力することで、世界のどこで、誰がつくったものかを知ることが可能になる予定です。

イオンは、自然資源の持続可能性と事業活動の継続的発展の両立を目指し、2017年4月に「イオン持続可能な調達方針」のもと、「持続可能な調達2020年目標」を策定しました。

農産物においては、2020年目標として、プライベートブランド商品ではグローバルGAPをはじめとする、世界食品安全イニシアティブ (GFSI[※]) ベースのGAP (適正農業規範) 管理100%の実施をめざすことを掲げています。この目標達成に向け、提携する生産者の方々のご協力のもと、認証取得商品の取り扱い拡大に向けて取り組んでいます。また、自ら運営する「イオン農場」ではすでに全21農場においてグローバルGAPを取得するとともに、同農場を運営するイオンアグリ創造 (株) では、認証取得を目指す生産者の方々の支援等も実施しています。

こうした取り組みに加え、この度のGGNラベル付き商品の展開により、生産者の方々のみならず、イオンをご利用いただくお客さまにもグローバルGAPへの認知や支持が高まり、持続可能な農業がさらに広がるよう、イオンはこれからも様々な取り組みを続けてまいります。

※GFSI (Global Food Safety Initiative) : 世界食品安全イニシアチブ
グローバルに展開する小売業、食品メーカーで構成するTCGF (The Consumer Goods Forum) 傘下の食品安全の推進団体。食品安全規格の認定も実施

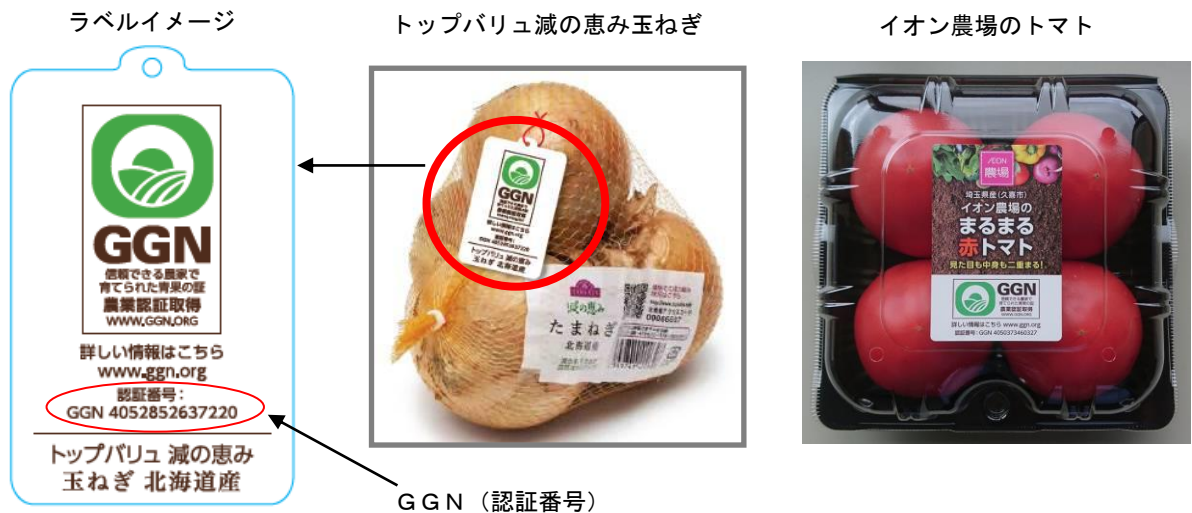
【GGNラベル付き商品】

- ・トップバリュベストプライスパナナ
- ・トップバリュ減の恵みじゃがいも
- ・トップバリュ減の恵み玉ねぎ

【一部エリアで扱う商品】

- ・小松菜（イオン千葉柏農場・イオン埼玉松伏農場、イオン岩手花巻農場）
- ・トマト（イオン埼玉久喜農場）

※ 順次品目を増やしていきます。



【GGN（認証番号）を使って確認できる事項（予定）】

- ・産地情報
- ・生産者情報
- ・生産段階での取り組み など

※ 11月以降に検索が可能になる予定です。

GGNのWEBサイトアドレス：<http://aeon.ggn.org/>



WEBサイトイメージ

ご参考

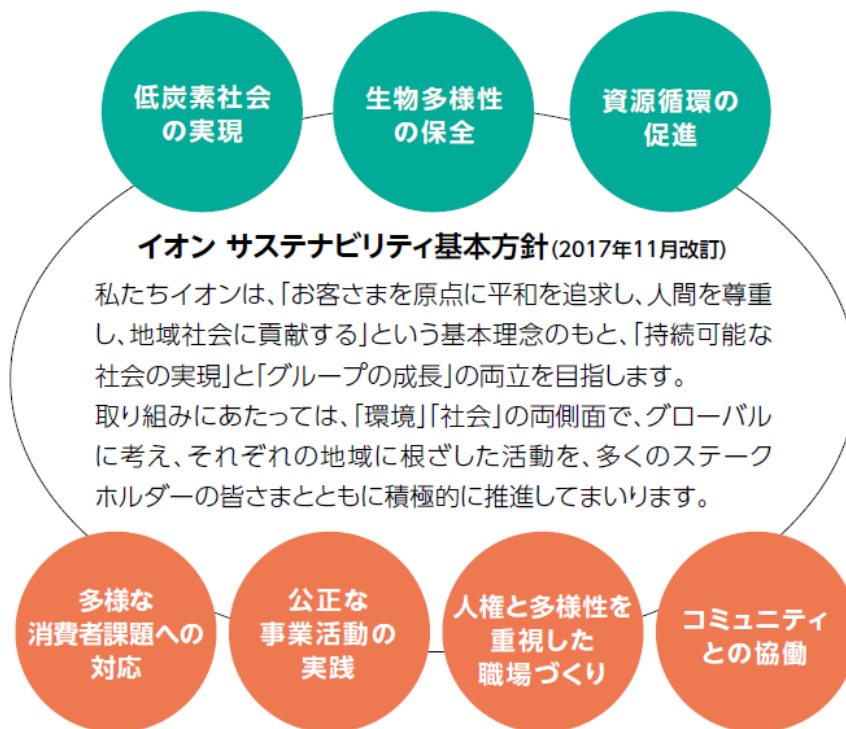
【イオン生物多様性方針】（2010年策定）

イオン生物多様性方針

イオンの事業活動は、農産物や水産物など、生きものの恵みなしには成り立ちません。イオンは、こうした認識のもと、持続可能な社会のために必要な生物多様性の保全を目指し、2010年3月に「イオン生物多様性方針」を策定しました。

基本方針	行動指針(抜粋)
事業活動全体における、生態系への影響を把握し、お客さまや行政、NGOなどステークホルダーの皆さまと連携しながら、その影響の低減と保全活動を積極的に推進します。 わたしたちは、「生態系」について事業活動を通じ 1.「めぐみ」と「いたみ」を自覚します。 2.「まもる」「そだてる」ための活動を実行します。 3.活動内容をお知らせします。	1.商品:持続可能性に配慮し資源管理された生鮮品やそれらの加工品についての目標を設定し、お取引先さまと共有しながら、仕入れ・販売活動を行い、お客さまにその情報を発信します。 2.店舗:継続して店舗出店時の植樹活動をお客さまと推進するとともに、店舗の環境負荷を減少させるエコストアの開発を進めます。 3.お客さまとともに:植樹活動などを通じて環境意識を皆さまと共有し学習してまいります。

【イオン サステナビリティ基本方針】（2011年策定、2017年改訂）



【イオン持続可能な調達方針・2020年目標】（2017年策定）

対象	イオン持続可能な調達方針	持続可能な調達2020年目標
農産物	自然・生態系・社会と調和のとれた持続可能な農産物の調達に努めます。自らも野菜を栽培することで安全でおいしい野菜を提供し、安心してらせる食の未来の創造に貢献します。	・プライベートブランドは、GFSI※1ベースの適正農業規範(GAP)管理の100%実施をめざす ・オーガニック農産物売上構成比5%をめざす
畜産物	自然・生態系・社会と調和のとれた持続可能な畜産物の調達に努めます。自らも牛肉を生産することで安全でおいしい牛肉を提供し、安心してらせる食の未来の創造に貢献します。	・プライベートブランドは、GFSIベースの食品安全マネジメントシステム(FSMS)または、適正農業規範(GAP)による管理の100%実施をめざす
水産物	資源の枯渇防止と生物多様性保全の観点から、定期的リスク評価を行います。また、リスク低減のために、実行可能な対策を検討し、持続可能な水産物の調達に努めます。(*1)	・イオン(株)連結対象の総合スーパー、スーパーマーケット企業で、MSC※2、ASC※3の流通・加工認証(CoC)の100%取得をめざす ・主要な全魚種で、持続可能な裏付けのあるプライベートブランドを提供する
紙・パルプ・木材	適切に管理された森から生産された木材やパルプを商品の原材料や店舗の資材に活用し、森林破壊の防止に努めます。(*2)	・主要なカテゴリーのプライベートブランドについて、持続可能な認証(FSC® ※4 認証等)原料の100%利用をめざす
パーム油	商品の原材料として使われるパーム油について、森林破壊の防止及び生物多様性に配慮した調達に努めます。	・プライベートブランドは、持続可能な認証(RSPO※5等)原料の100%利用をめざす

(*1) 水産物に関する調達方針は、2014年に「イオン水産物調達方針」として先行して定めたものです。

(*2) 紙・パルプ・木材に関する調達方針は、2016年に「イオン森林資源調達方針」として先行して定めたものです。

※1 GFSI (Global Food Safety Initiative) : 世界食品安全イニシアチブ
グローバルに展開する小売業、食品メーカーで構成するTCGF (The Consumer Goods Forum) 傘下の食品安全の推進団体。食品安全規格の認定も実施

※2 MSC (Marine Stewardship Council) : 海洋管理協議会
持続可能で社会的に責任ある方法で漁獲された天然水産物の認証制度を運営

※3 ASC (Aquaculture Stewardship Council) : 水産養殖管理協議会
環境や社会に配慮した養殖場で生産された水産物の認証制度を運営

※4 FSC® (Forest Stewardship Council) : 森林管理協議会
管理や伐採が、環境や地域社会に配慮して行なわれている森林の認証制度を運営

※5 RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil) : 持続可能なパーム油のための円卓会議
世界的に信頼される認証基準の策定とステークホルダー(関係者)の参加を通じ、持続可能なパーム油の生産と利用を促進